

私はクリスチャンホームに生まれました。祖母、父、母、兄2人、私の6人家族でした。そして幼い頃から谷田部キリスト教会で礼拝をささげました。

小学生までの私はあまり深くいろいろなことに疑問を持たずに過ごしてきましたが、中学生になると急に他人の話していることや目を気にするようになっていきました。「あなたのお家は教会なの？毎週日曜日は教会に行っているの？」と同級生に聞かれることが多くなりました。その度に「他の人たちは私を特別な目で見ている。特別に見られたくない。」という気持ちが働き、いつの間にか教会に行っている自分を隠し始めていました。

そして高校へ入学し、念願だった吹奏楽部に入部。放課後は毎日遅くまで練習し、土日も練習に明け暮れる日々を過ごしました。また友人と好きなコンサートへ行き現実から逃避する毎日でした。私にとっては「もう教会に行かなくていい。他人の目を気にしなくていい。好きなことをして過ごしていけばいい。」と行ってしまいました。しかし、そういう中であって勉強や部活動で忙しい日々を過ごし、高校2年生頃から体調を崩し病院へ。自律神経失調症と診断されました。朝、目覚めると腹痛をおこし登校はするものの1.2時限で直ぐ下校することが増えていきました。私は「精神的に疲れ果てている自分」、「教会に行かない自分」に対して虚しさや後ろめたさを感じ始めていきました。

そんな私に神様はある特別な日を私に用意して下さいました。それが1990年の秋の特別伝道集会でした。「人を生かす愛」と題して、大磯キリスト教会の佐藤光脩師が語って下さいました。説教箇所は小さな頃から教会で聞いたことがあるルカの福音書15章11章～32節の放蕩息子の話でした。その息子は、父親から財産の分け前を下さいと言ってその分け前を持って遠い国へ行きました。その行った先で息子は放蕩して湯水のように財産を使ってしまいました。何もかも使い果たした後、その国に大ききんが起り、彼は食べるにも困ることになりました。そんなどん底の生活を送っていた彼が、われに返って「お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪あるものです。もう、息子と呼ばれる資格はありません。」(ルカ15:21)と父のもとに帰って告白しました。しかし、父親はその息子をかわいそうに思い走りよって口づけしました。父親は「この息子は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。」(ルカ15:24)と息子を温かく迎えお祝いしました。この話に出てくる父親は神様であり、息子は…今の私なのだ気づかされました。神様はどんなに背を向けて生活してきた私でさえも、この放蕩息子のように罪を告白すれば大きな愛で私を赦して下さいと信じ、神様を受け入れたいと心から思いました。

こんな罪深い私でさえもお見捨てにならない神様、私の罪のために十字架にかかって下さったイエス様。御国へ行くその日まで神様とともに歩みたいと思いました。この時に神様が私に与えて下さったみことばは「私は、キリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きているのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」(ガラテヤ2:20)そして1991年8月4日、主のあわれみにより洗礼を授かりました。この恵みを心から感謝しました。

現在、私は結婚し2人の子どもに恵まれ忙しい日々を送っています。そのような中、長い間祈って来ました義父が今年の6月、洗礼を授かりました。共に礼拝をささげられていることはこの上ない喜びです。まだ救われていない家族一人一人の上に主が伴ってください、相応しい時を用意して下さいことを信じて、祈っていきます。

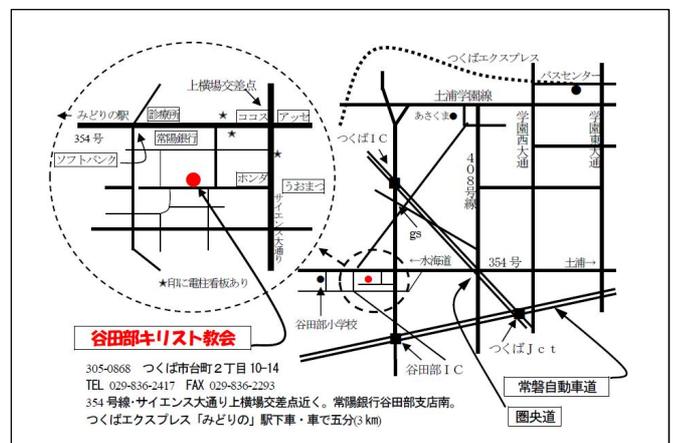
教会へのお越しは

個人的にお尋ねになりたいことやご相談にも応じます。ご連絡ください。教会正面、西側、裏側に約50台収容可能な駐車場がございます。どうぞご利用ください。

谷田部キリスト教会

つくば市台町2丁目10-14

電話 029-836-2417 <http://yatabe-church.sakura.ne.jp>



私たちの教会は、聖書を神のことばと信じる正統的なプロテスタント教会です。統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教(末日聖徒イエス・キリスト教会)、その他の新興宗教とは違います。